

令和3年度

# 幼稚園だより 9月号



文京区立千駄木幼稚園

## オリンピック・パラリンピックと子どもたち

園長 渡邊 典子

2学期が始まりました。夏休み期間中緊急事態宣言が発出されていたため、子どもたちは海や山、保護者のふるさと等で思い切り体を動かして遊ぶことができず、幼稚園の始まりを楽しみにしていたことでしょう。しかし、感染症の変異株の広がりによって始業式が延期となり、新学期早々ご協力をいただきありがとうございました。

そのような中で、東京2020オリンピックが開催されました。直接観ることはできなくなりましたが、放送された競技も多く、各家庭でいろいろな競技を応援されたことと思います。幼稚園にはオレンジルーム利用の子どもたちが登園していましたので、オリンピックのニュースコーナーを設置しました。兄妹で金メダルを獲得した柔道の阿部選手や卓球の混合ダブルス伊藤・水谷選手の記事を貼っていると、「見た、見た。金メダルとったんだよね」と、子どもたちにも関心が高かったようです。スケートボードの写真を見たAちゃんは「私もやってみたい」と言い、Bちゃんはバドミントンの写真に「やったことあるよ」と言うなど、競技に興味や関心をもったり身近に感じたりしたように思います。また、Cちゃんは「私、自転車観に行っただ」と言うので、「自転車、道路で走るの観に行っただ」と聞くと、Cちゃん「そう」と。ロードレースを観に行っただようで、雰囲気や自転車のスピード感などについて話が盛り上がりました。きっと記憶に残るオリンピックになることでしょう。

パラリンピックは『多様性と調和』が掲げられ、こちらもいろいろな競技が放送されました。障害に応じてその人なりの方法で各種の競技に取り組んでいる姿や、自分の力を出し切って笑顔でゴール（競技を終える）する姿に感動をもらいました。パラリンピックをきっかけに、みんなが違ってみんなよくて、互いを理解し、助け合うことの大切さについて改めて伝えていきます。

ところで、一つの競技に特化している選手の中で、自転車に乗れない、走ることや球技が苦手、ということを知ったことがあります。幼児期にはいろいろな運動遊びを通して柔軟な体を育み、体を動かす楽しさやできるようになった嬉しさ、友達と競うワクワク感、力を合わせてできた達成感などの様々な感情も体験することが大切です。体を動かすことが好きになった先に、オリンピックを目指す子がいると嬉しいです。

感染症の拡大を受け、子どもたちの健康を守るために看護師による衛生講習会を全教職員で行ったり、教職員自身が感染防止の意識を高めたり、できる限りの対策に努めてまいります。保護者の皆様には、ご自身の健康にご留意いただき、今後ともご理解とご協力をお願いいたします。



8月のオリンピックのニュースコーナー（ホール）

9月は階段に移動

